

大草谷津田いきものの里 自然観察会

クイズを当てて虫博士

田井中信子（千葉市）

日 時：2010年7月18日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：21名（大人15名、子ども6名）

担当指導者：岡田敬子、田井中信子

「大草谷津田いきものの里」が作られた主旨、概要を説明。スズメバチに対する注意と暑いので熱中症の予防に水分をとって頂くようお願いした。

クイズは、トンボ、チョウ、ダンゴムシ、アリ、バッタの5問用意したが、3問で時間切れとなった。

第1問やさしい問題で、正解はトンボ。

早速、子供達はトンボ採りに散った。オニヤンマ、オオシオカラ、シオカラ、ノシメの各トンボ、ナツアカネが虫籠に集まった。

関連のクイズは、オニヤンマの口と目に関する問題。口は直ぐに正解が出たが、目は少々迷った子供もいた。そこで、じゃんけんのチョキの形で羽を持つ練習を行い、改めて観察してもらった。

チョウはスジグロシロチョウが直ぐに採集された。

その他杉林の道では、ミドリヒョウモンが吸水している様子が観察された。また、田んぼの上をナガサキアゲハが飛翔している姿が見られた。そこで、大人向けに一概に地球温暖化のためとは言えないが最近南方系のチョウが増えてきていること、食草のスマレ科の園芸種（パンジー等）が盛んに植えられていることもあって、ツマグロヒョウモン等も良く見られるようになった話を合間にはさんだ。

チョウの持ち方は、羽を合わせて鱗粉が取れないように胸のところを押さえ持つ。

この方法は少々手加減が難しいので指導員が手本を示すに留めた。

網を使うのが難しい幼児や低学年の子どももダンゴ虫のクイズでは、田んぼの脇に草取りした草がまとめて置いてあった所から、虫を見つけて、たくさん集まった。そこで、ダンゴムシについての絵本を使って解説。大人も興味をもって聞いていた。

その他セミの抜け穴、抜け殻、声、ヤゴの抜け殻、ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサの観察も行った。最後に虫を放し、クイズに答えてくれた虫博士達に折り紙のクワガタ、トンボをプレゼントした。

虫採りに夢中になっている子ども達は生き生きとして楽しそうだった。オニヤンマやバッタ等もいて、ここは虫の楽園ですねという感想でした。



写真 武田宏子さん